

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	姫路市総合計画策定審議会 第3分科会 第2回会議
2 開催日時	令和元年10月17日（木曜日） 14時00分～15時55分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館5階 第2会議室
4 出席者又は欠席者名	姫路市総合計画策定審議会委員 第3分科会 委員 11人中 9人（2人代理） 姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 1人
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可（5人） 傍聴人（0人）
6 議題又は案件及び結論等	1. 開会 2. 事務局説明 3. 審議 4. その他 5. 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	1 開会 (14:00)
分科会会長	2 事務局説明 ・「資料1 新総合計画の構成」について事務局から説明をお願いします。
事務局	[説明資料] 資料1 新総合計画の構成
分科会会長	・ご説明いただいた基本構想の9つの分野のうち、担当するのが「健康福祉」と「教育」の2分野、政策は「健康福祉」5つ、「教育」で3つということである。 ・この部分についてはよろしいか。では、次第3 審議に移る。
分科会会長	3 審議 ・資料2の「分野目標(案)」「政策(案)」について事務局から説明をお願いします。
事務局	[説明資料] 補足説明資料 資料2 健康福祉(2-1、2-2、2-3)
分科会会長	・補足説明資料の参考1、参考2で「分野目標(案)」「政策(案)」の最終的に作成する全体像をお示しいただいた。その点については非常に分かりやすいと思うがいかがか。 ・続いて、内容。資料の2で、今回5項目審議するうちの3つを説明いただいた。 ・政策1、政策2、政策3について、それぞれご意見をいただきたいが、1つあたり15分ほどの審議時間になるかと思うが進め方についての意見はあるか。 ・分野目標についてはどうか。分野目標はとりまとめて表現していただいております、ある意味総合的な表現になっている。
委員	・障害者の立場からいくつか意見を言いたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の2ページ、8050問題や、ダブルケアの問題は、全国的な傾向は記載の通りかもしれないが、具体的に姫路市の数字を示した上で議論する必要があるのではないかと。特定教育・保育施設の利用定員数、健康寿命では姫路市の数字が示されており、姫路の状況がわかる。 ・資料2の1ページ、一番下の分野目標、～命・くらしの支え合い～のところ、言葉としてはそうかもしれないが、実際にそのような方向になっているのか。障害者が車椅子で近くの公園に行けるのかということ考えた時にこのような表現で良いのかと疑問に思った。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・8050問題やダブルケアの問題は、すでに事象としてはあるかと思うので、課題として挙げている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市にはそういった世帯がどのくらいあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市でそのような世帯が非常に多くて社会問題になるというところまではいっていないと思うが、今後高齢化がどんどん進む中でそういった問題が大きくなっていくことが考えられるので今回の総合計画の課題として考えていきたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・再確認だが、私たちが今日の段階で協議するのは、総合計画の構成のうちの基本構想、いわゆる全体像の部分である。 ・今言っていた具体的な部分は、この後の政策を考える際に、議論が進んでいくところになるかと思うがいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・我々が姫路市における健康福祉分野の背景を考える時に、単に全国がこうだからということではなくて、市としてそのような背景があるのかなというところを聞きたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどもお話したとおり「ある」ということで課題として挙げている。具体的な事業は実施計画の中で、更に踏み込んだ内容は各個別計画での話になる。この総合計画の分科会の中では、こういった方向で進めていけば

分科会会長	<p>良くなるのではないかというご意見をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・続けてご意見があるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2-1の3ページ、政策1「地域に根差したきめ細かな福祉の充実」について、「現状分析・社会潮流」に内部環境、外部環境とあるが、外部環境では、障害者差別解消法の制定の意義などをここで強調されてはどうか。特に②の「国による『我が事・丸ごと』地域共生社会の推進」があるが、障害者差別解消法はいわゆる社会レベルの障害者対策の考え方であり、今回の計画の中でも大きなウェイトを占めると思う。障害者差別解消法の制定を外部環境の強みとして加えるべきではないか。 ・「(審議会において) ご意見をいただきたい事項」の2つ目に、「支援が必要な人を地域全体で支えていくためにできることは？」とあるが、ここは、後で具体的に数値目標として挙げられるということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画で具体的な数値目標を挙げて、PDCAサイクルで施策・事業を見直ししていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・次の政策2について、「現状分析・社会潮流」の悪影響の弱みに「①障害者のニーズと事業者のサービス提供体制との需給不均衡により計画相談支援等の継続が困難」とある。例えば、手話通訳のサービスなどはニーズはあるが、手話通訳ができる人の数が足りずサービスを増やせないなど、支援する側の人手が不足していることで、サービスの受給量に制限があり、広く障害当事者が社会参加できていないという問題もある。そのあたりも踏まえて、内部環境の強みの中に「総合福祉会館の活用」などを含めて記載してはどうか。 ・また、右下の「(審議会において) ご意見をいただきたい事項」の2で、「ウ 福祉専門職(介護福祉士、社会福祉士等)を確保、育成するためには？」とある。ここについても手話通訳者の養成、要約筆記者の養成、介護ヘルパーの養成などについて、具体的な数値目標を加え、当事者に対応したサービスの提供も含めて、障害当事者が社会参画できる体制の構築といった

分科会会長	<p>ことをもう少し書ければ良い。それこそサービスの受給量の制限を撤廃するといった方向性が示されるべきではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策3のところ、現状分析・社会潮流の弱みに「④医療・介護サービス事業者の地域偏在」が挙げられているが、合併をしてから時間が経っており、我々も障害者と関わっていて、都市部から離れるほどそういった負担も大きくなってきている。福祉サービスそのものを受けることができにくい状況も出ている。 ・ただいまのご意見も踏まえながら、資料2-1、政策1「地域に根差したきめ細やかな福祉の充実」について、政策、目指す姿の修正、内容の不足に関してのご意見はいかがか。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2で確認したいことがある。分野目標に「高齢者、障害者、子ども、生活困窮者を含むすべての人」とあるが、この4者で十分なのか。この後で8050問題などが取り上げられており、これは中高年の引きこもりの問題で、県や政令市であれば、地域の支援センターでこういった窓口があるが、姫路市は中核市であるので、生活困窮者自立支援法に基づいて市役所並びに社会福祉協議会で相談できる体制がある。また、資料2-1の「2 目指す姿を実現するための方向性」のEで地域防災対策の強化とあるが、その文脈では災害時要援護者という言葉が出てくる。分野目標の中に記載されるのはこの4者だけで良いのか。「生活困窮者等」などしてもう少し含みを持たせた方がよいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今のご指摘について、なるべく具体的に書く意図でこのようにしている。昨日の別の分科会では「等」「など」をなるべく使わない方がよいとの意見も出た。分科会間での調整もあるので検討させていただく。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・3ページについて、他の委員の皆さんどうか。 ・事務局としては、ご意見をいただきたい事項でア・イ・ウの3つを挙げていただいている。ア・イ・ウを含めてご意見いただければと思う。

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・特にならなければ、資料2-2、政策2「いきいきと暮らせる障害者福祉の充実」のご意見をいただきたい。 ・社会潮流などについて、不足していることはないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・政策2について、「目指す姿を実現するための方向性」の現行実施計画の95ページに数値目標が書かれている。下の方に、福祉専門職という表現があるが、「手話通訳者」「筆記」「介護ヘルパー」の記載はないように思う。 ・障害者の日常生活を豊かにする、障害特性に応じた支援といった場合に、現行の生活支援の中に日常生活用具の給付事業もあるが、給付の条件が非常に厳しい。障害者が本当に自由な生活をしようとしたときに制限も多く問題だと思っている。 ・例えば「C 障害者の日常生活の支援」ということで、日常生活用具の支給条件が厳しいので、代わりに支援する人の養成として、具体的にこれくらいを養成するといった数値目標を設定してはどうか。漠然と手話通訳の養成講座をしているとか、相談をしているとかだけではなく、現実には何人くらいの視覚障害者がいるので、対応するのにどのくらいのマンパワーが必要になるのか、わかるように考えていくことが必要。それをある程度のスパンで総合計画の中で示していければ良い。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・現行実施計画に関連したところであるが、新しい計画を作る時にそういった内容が含まれると良いというご意見をいただいたと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの繰り返しになるが、細かい数値目標は実施計画の話になる。その数値目標を掲げるにあたり、まずはどのような政策をしていくか、さらにどういった方向性をもって施策を進めるか、ということも議論していただきたい。その方向性が決まってからどういった数値目標が適切なのかといったことを考えていくことになる。具体的にこの分野でこの数値目標を示してほしいというご意見だが、今の時点では、まだ政策・施策が決まっておらず、今はその議論はできないかと思う。 ・本日は「目指す姿」について主にご意見をいただきたい。

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「（審議会において）ご意見をいただきたい事項」と書いていただいているところではどうか。福祉専門職のところは先ほどご意見いただいた。 ・「市民、地域、企業・団体に期待すること」についてのご意見はないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数ヶ月母のケアで、介護福祉士、社会福祉士に地域包括支援センターでお世話になった。とてもスピーディーに作業してくださり、感心する事ばかりであったが、本当に忙しそうである。今日のお話を聞いても、本当にどの分野も人手不足とお金の問題がある。お金と人材の問題は本当に難しい問題だと思った。 ・手話通訳について、広報にたまに講習会の案内があるが、市民には敷居が高いように思う。子どもの読み聞かせなども目にするが、ああいったのも特別な技術が必要なようで、一般市民は広報を見ても二の足を踏んでしまう。もう少し近くの公民館で開催するなどであれば、敷居が低くなるのではないか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿を実現するために、市民参加を促すような方向性も、検討する必要があると理解した。 ・資料2-3、政策3「健康で安心して暮らせる高齢者福祉の充実」はどうか。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの充実を図ることが大事である。また、住み慣れた環境で生活していくためには在宅医療の充実が必要だと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿を実現するため、高齢者に関する医療や、医療・介護、多職種連携に関するご意見であった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療がこれからますます必要になることは明らかで、病院も単独で対応することは非常に難しく、在宅診療施設と病院が連携して、地域で完結するようなシステムを構築しないと、増え続ける高齢者、医療費に対応できない。具体的にどうすればよいか案があるわけではないが、そういつ

委員代理	<p>た方向で考えていただければと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療を支持される方も多いが、実際、在宅医療をしている人にとっては老々介護に繋がることもある。介護しているうちに、どちらも認知症になるなどの問題もある。家族が近くに住んでいてもあまり交流がなく、不幸になるパターンもある。逆にうまくできている場合もあり、絞らずに多様性を持って取り組むことが必要だと感じる。 ・また、看取りについては医師が主体というよりも、これからは家族、看護師など関係する多職種の人を中心となり、そこに医師が入るという流れになっていくと思う。 ・地域医療連絡会議では、医師会が中心にはなっているが、医師だけではなく、看護師、ケアマネージャーの参加も必要と思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・医療関連の方からご意見をいただいた。市の実現したい医療・介護として、たくさんの方が連携しながら、健康でみんなが安心できる高齢者福祉というところに繋げていきたいという目標を立てていただいているかと思う。 ・次の説明に移る。
事務局	<p>[説明資料] 資料2-4、2-5</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・政策4 「健やかな成長を支える子育て環境の充実」についていかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境は親の考え方がとても大きいと思うが、その中でも子育てにすごく熱心な方とそうでない方があるので、意識改革ができればよいと常々思っている。関心のある方は良いが、関心の無い方にどう関心を持ってもらうかが重要である。「エ 親の子育て力を高めるには？」に関連するところである。 ・未就園児で、児童センターやすこやかセンターに行かれる方は、いつも行かれているが、行かれない方はなかなかそこに関心が向かない。その中で一番の受け皿になるのが、保育園・こども園などであり、そこで親が孤

分科会会長	<p>立しないように声かけをすることが重要である。そういった役割を担っていかないといけないと考えている。</p> <p>・目指す姿の「子育て家庭がその家庭の状況に関わらず、必要な時に質の高い保育サービスや支援を受けることができる。」の実感として考えておられることだと思う。実現するための方向性につながる子育て力も難しいところかと思う。</p>
委員	<p>・最近、虐待等の事件がたくさん発生しており、非常に心を痛めている。行政間の連携がスムーズにできれば良いなということと、ひとり親世帯の増加に伴い、親の子育て力の低下もあるので、どんどん相談しやすい環境を作っていくことが大事ではないかと思っている。</p>
分科会会長	<p>・相談しやすい環境づくりが重要というところで、それは「ウ 安心して子どもを預けられる保育環境（人材・場所等）を整えるには？」にも繋がる。</p> <p>・仕事と子育てを両立されている共働きの方、ひとり親で働いて子育てされる方、そういった方の支援につながる。</p>
委員代理	<p>・関心のある方は自分からどんどん情報を取り入れられていて関心の差が大きい。私共も親力、親の子育て力を高めていける講演などの案内もするが、来ていただける方は支援が必要のないような方が多い。本当に情報をお届けしたいのは来ていただけない方である。</p> <p>・相談窓口についても、どこに相談していいかわからない。市のサービスがあることを知らない人もある。窓口が一本化されているとよいが、そうもいかない。</p> <p>・今は関心の無い方が、そういった情報をどうやって得ているかと言うと、情報通信手段を使って、インターネットで検索されている。そこで出てくるものが全部正しいとは限らない。そういった情報の取捨選択がなかなかできない中で、正しい情報を選択する方法をどのように知ってもらえばいいかというところも問題として考えている。</p> <p>・現状分析に、情報収集の多様化・容易化が好影響に書かれているが、私</p>

分科会会長	<p>としては全てが好影響とは思えない。情報を取捨選択する力をどうつけてもらうかは大きな課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか興味のない方にどう情報に触れていただくかについては様々な団体の課題になってくると痛感している。 ・情報へのアクセスは、今の子育て世代の特性でもあるかと思う。地域包括支援センターの話が高齢者のところで出ていたが、子どもを対象とした包括支援センターもあちこちで動きがあるが姫路市ではどうなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやかセンター、児童センター、保育所（園）等で行っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・総合福祉会館の3階にもこども家庭総合支援室がある。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民、地域、企業・団体に期待すること」として、情報のアクセスや、相談しやすい体制づくりに繋がるような方向付けができればよいということであった。 ・資料2-5はどうか。政策5「健康で安心な市民生活の充実」では目指す姿が2つ表現されている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・政策5ではないが、子育てに関して非常によかったのは、豊岡市では、保健師さんがよく相談にのってくれたこと。自分の経験では妻が医療機関で働いていて忙しくしていたので、夫である自分の意識改革が必要であった。6ページの「2 目指す姿を実現するための方向性」に「男女が共に活躍できる環境の充実」とあるが、まだまだ、男女が共に活躍できる環境としては課題があるように思う。子育てをするにおいても男性の意識改革は重要である。私が参加した子育て講座においても男性の参加率は少なかった。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境も踏まえて、男女が共同して活動できるという視点も目指す姿を実現するにあたっては重要というご意見であったと思う。

分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局にお聞きしたいが、7ページ「2 目指す姿を実現するための方向性」に現行計画の施策として「D 健康づくり支援体制の充実」というのがあるが、8ページの内部環境の弱みとして「がん検診の受診率が低い」、「糖尿病の罹患率が高い」とあり、施策とはうらはらである。理由や背景などあると思うが、施策をしたが期待された状態になっていないということについて、どのようにお考えか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の健康ということで、がん検診をはじめ、人間ドックなどを受診できるようにしており、対象者に対して受診票を送付しているが、結果として受診率はそんなに高くなっていないので、課題として捉えているところである。 ・受診率をいかに高めていくかについて、市としては無料で検診が受けられるということをもっと市民に知ってもらうということが一番大事だと思っている。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・政策5の内部環境の①で強みとして、健康づくりに取り組んでいるということがある一方で、行政側の告知の不十分さなのか、もともと市民の健康意識が低い状態にあるのか、そのあたりが施策に反映される必要がある。
委員代理	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の有所見率が高いことについて、これは解析の際に特定健診の結果を使うが、姫路市では特定健診を受診している糖尿病患者がたくさんいるために、他市町村と比べて糖尿病のデータが悪いという最終的な解析結果になっている。全国で一番糖尿病が多いと言われているが、そういった要因があつてのことなので多少悪いかもしれないが、それほど悪いとは思っていない。 ・ただ、がん検診に関しては検診へのアクセスは悪い。もう少し多くの場所で実施できればいいと思う。受けたい人はたくさんいるが、なかなか日程が合わない等でできていない印象がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の結果は、子宮ガンと乳がんの受診率は他の市町村より高い。反対に胃ガンは低い。

分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今のお話を聞くと、政策5の弱みの②は必ずしも文言どおりではないということになるので、違う解説が必要ではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討する。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・分析は条件が関係しているということだが、いわゆる国に報告しているデータは基準値として有効という考え方もある。 ・健康意識を高めることについて、各委員のご意見が出たが、追加のご意見があれば報告いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・6ページの子育てのところ、悪影響、弱みの「⑦ 処遇改善などの都市間競争による保育人材の確保が困難」と「⑧ 学生数の減少による市内の指定保育士養成施設の保育学科の廃止、定員の減少」について。これは子どもの数が減っている、保育士も少なくなっているということかもしれないが、明石市では保育士の手当がいいので、明石市に流れるという話を聞いたことがある。姫路市ではどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市で保育士が取り合いになっているのは事実で、姫路市でも私立教育保育施設職員処遇改善事業を行っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路で育った保育士が他市へ行ってしまい、ここで育った先生がいなくなるのは残念だと思う。 ・もう1点、老人クラブについてである。老人クラブは行事が多く毎日忙しい。老人クラブには人数に応じて補助金が出ているが、活動に十分な補助金が出ていない。 ・また、老人クラブの会合や行事に男性はほとんど参加しない。認知症サロンなどの場でも20人いたら男性は1人ほどである。なぜ男性は高齢になると地域に出て行かないのか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかご意見いただいた。高齢者になっても継続して活躍できるとい

<p>参与</p>	<p>うところにおいては、男女の偏在が見られるということかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一点は、人材の話。総合計画であるので、中・長期になるかと思うが、この地域で育てた人材を、地域にしっかりと働く場を保証していくことが重要である。 ・最近、健康寿命について取り沙汰されているが、特にメタボやフレイル対策が重要になってきている。姫路は特定健診、メタボ検診の率が低いのでその辺りの改善も大事である。フレイルについても今後考えていかなければならない。 ・もう一つ、生活衛生の分野があり、そちらについては、犬猫の譲渡会などもされているが、犬猫の殺処分ゼロに向けた取組をやっていただきたい。
<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・追加で、フレイル予防の意見がでた。健康寿命につながるということと、生涯活躍するということ、高齢者が高齢者を見るという介護問題にもつながる。これは健康意識にもつながる。
<p>分科会副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から冒頭に説明のあった縦長の、参考1「分野目標の完成イメージ（⇒基本構想）」のところについて、それぞれの分野、そこのタイトルを見ると、健康福祉分野は「命」と「くらし」に象徴されているように思う。その高齢者、障害者をどのような言葉にするかについて先ほどご意見があった。「高齢者、障害者、子ども、生活困窮者」が象徴的な言葉として示されていて、この言葉を置くことによって特化していることが見えてくるので私は良いと思う。では、そこに引きこもりはどうかということところは、ひょっとすると教育分野と関係があるかもしれない。今、若年者の引きこもりが60万人と言われおり、その方が年を重ねられると、中高年の引きこもりとなるのかもしれない。
<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に分野目標についてどうか、説明文についてのご意見を伺ったが、もう一度戻りたいと思う。目標「～命・くらしの支え合い～」、説明文「高齢者、障害者、子ども、生活困窮者を含むすべての人が、住み慣れた地域において健やかな暮らしと生きがいを共に創り、市民一人ひとりの命を支

事務局	<p>え合う社会の実現を目指す。」についていかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉の柱となる5つの政策の表現についてはどうか。「1 地域に根差したきめ細かな福祉の充実」「2 いきいきと暮らせる障害者福祉の充実」「3 健康で安心して暮らせる高齢者福祉の充実」「4 健やかな成長を支える子育て環境の充実」「5 健康で安心な市民生活の充実」である。 ・特になければ、これで第3分科会の第2回会議は終わりとする。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は、教育分野を審議していただく。日程は11月14日（木）夕方、16時から2時間程度。場所は市役所本庁舎10階第2会議室。 ・「#自称姫路市長」の取組について、委員に協力依頼。 ・以上をもって閉会とする。 <p>5 閉会（15:55）</p>
-----	---